

江井島、魚住、二見 「行基の伝説」

山川出版社の日本史の教科書に、奈良時代、「行基のように、農民のための灌漑用水や交通の施設をつくるなどの社会事業をすすめながら、布教につとめる僧もあらわれた」とあります。明石の江井島付近から魚住、二見の海岸近くのいくつかの寺院には、行基が開いたという寺伝があります。また、江井島港の江井島漁業協同組合の事務所前には、「御崎地蔵大菩薩 行基大菩薩」の文字が刻まれた大きな石碑が立っています。大正時代に建てられたものです。

『路傍の歴史再発見』(2001年7月 神戸新聞総合出版センター)には、「江井島に行基が来たとは、文献もなく考えにくい、この近くにあった魚住の泊(港)を行基が開いたという伝説から、様々な話が生まれたと思われる。行基は多くの工人集団を持っており、その人たちが教えを広め、いろんなものを造っていった可能性がある」と書かれています。

江井島漁業協同組合のすぐ南、平成5年に兵庫県が設置したモニュメントの「江井島港の由来」には、聖武天皇が播磨に来た際に随行した歌人の和歌とともに、赤根川河口に石椋で築島を設けた魚住の泊の石椋に使用された玉石が数多く発見されたとの記載があります。

奈良時代、聖武天皇の頃、仏教の力で国を治めようと、大仏や国分寺が作られ始めましたが、行基はその造営事業に活躍し大僧正となりました。行基にまつわる話は各地にあります、明石には色濃く残っています。

○行基が開いた寺伝のある明石の寺院等



長楽寺(江井島)



定善寺(江井島)



薬師院(ぼたん寺 魚住)



東隣 天王神社(伝聖武天皇行幸地)



威徳院(二見 明石西高校より少し南に所在)



威徳院(二見 明石西高校より少し南に所在)



【行基が開いた摂播五泊、灌漑施設、寺院】

- 行基が作ったとされる港 摂播五泊
 - 室生泊(たつの市御津町室津) 韓泊(姫路市の形町)
 - 魚住泊(明石市大久保町) 大輪田泊(神戸市兵庫区)
 - 河尻泊(尼崎市神崎町)
- 行基が作ったとされる灌漑施設
 - 狭山池(大阪府狭山市) 昆陽池(伊丹市)
- 行基が作ったとされる寺院
 - 畿内 49 院(救済施設等)
 - その一つ昆陽施院(天平3年創建)の後身寺院 昆陽寺(伊丹市)